

南方遺跡発掘調査現地説明会資料

平成25年2月2日(土)

岡山市教育委員会

1 遺跡の概要

南方遺跡は旭川西岸平野のほぼ中央に位置し、弥生時代中期を中心とする集落遺跡として知られています。これまでに、旧国立病院、後楽館中・高校、済生会病院ライフケアセンターなどの建設に伴い発掘調査が行われており、多彩な木製品や多量の土器、石器などが出土しています。なかには九州や近畿地方など遠隔地の土器も含まれており、瀬戸内海を通じた交流や交易の拠点的な集落であったことがわかってきています。

2 発掘調査の概要

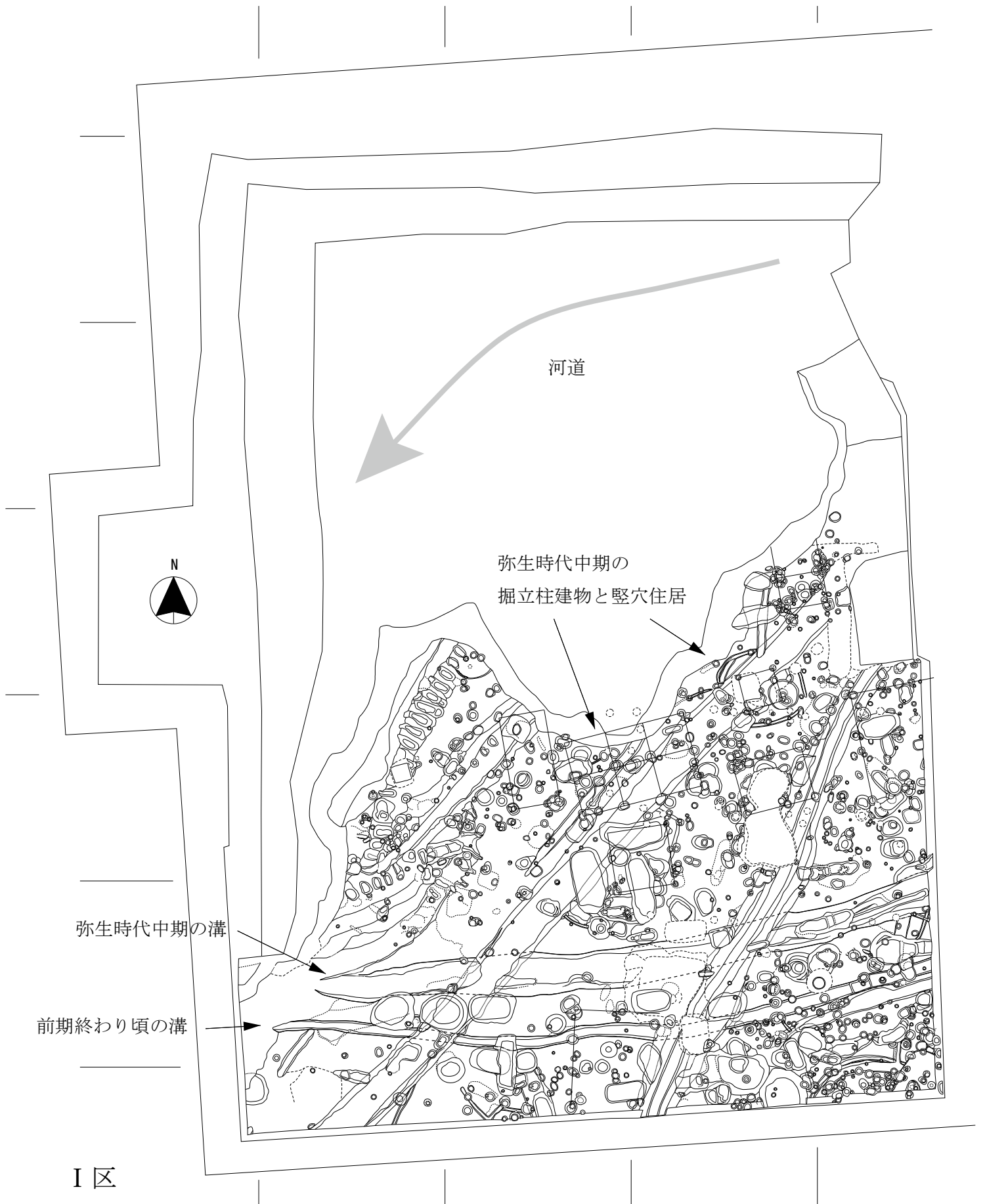
今回の発掘調査は岡山済生会病院の新病棟建設に伴い、平成24年4月からすすめています。約6,400㎡を2年間で調査する予定です。これまでに、1区、2区と呼んでいる調査区の調査がほぼ終了し、弥生時代前期末から中期中葉の住居跡、掘立柱建物跡、廃棄土坑、用水路、大溝など、古墳時代前期の住居跡、井戸、用水路などを検出しています。また、調査区の北側には古墳時代後期以降の大きな河道(川跡)を検出しています。

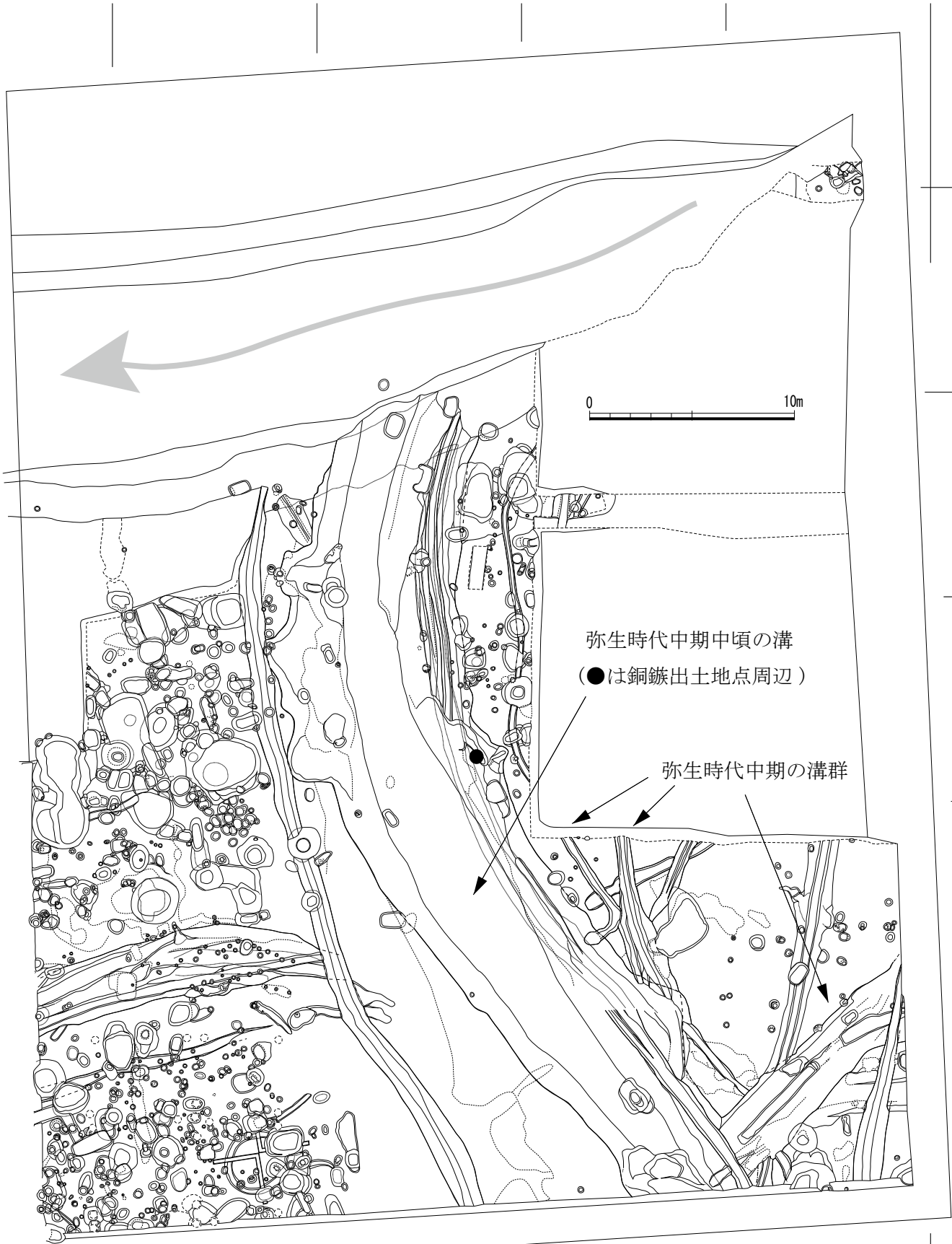
また、土器、石器など多量の遺物が出土しています。特に、大型蛤刃石斧、環状石斧は各製作工程を示す未製品も多く、南方で作られたものが周辺の集落に供給されていたようです。また、碧玉製の管玉なども生産されていたようです。



南方遺跡(済生会病院3次)調査地点の位置(1/5,000)

南方遺跡 調査区遺構配置図



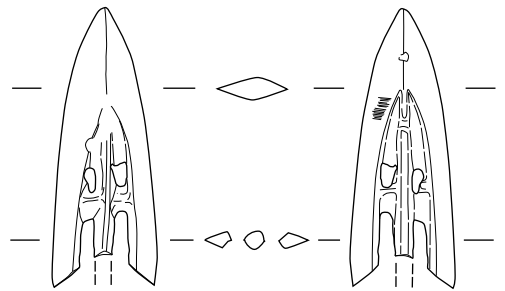


弥生時代中期中頃の溝
(●は銅鏃出土地点周辺)

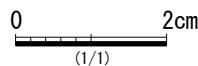
弥生時代中期の溝群

3 双翼式銅鏃

弥生時代中期中葉の大溝 (SD1144) からは青銅製の鏃 (矢尻) が出土しました。非常に精巧で保存状態も良いものです。劍の切っ先のような形をしており、中央に細いなかご (茎)、先端にむけて溝 (樋) があり、小さな孔があいています。これは双翼式とよばれる型式の銅鏃で中国中原地域の戦国時代前半 (紀元前5～4世紀頃) のものとみられます。この型式の矢はもとは戦車戦用の矢でしたが、このころには儀式用となっているとされています。出土した大溝へは、なにか祭祀に伴って投棄されたものと思われます。弥生時代中期中葉はおおよそ紀元前2世紀頃と見られますので、作られてから2百年ちかく経っているようです。伝来した経緯や経路はわかりませんが、宝物として大切にされてきたのでしょう。



長さ 37.0mm
 最大幅 14.4mm
 最大厚 2.4mm
 重量 3.69g



	中国	朝鮮	日本	おもな出来事
600			縄文時代	
500	春秋			
400	BC403			
300	戦国	無文土器時代		↑ 此のころ銅鏃が作られる ●南方遺跡に人が住み始める (前期末) ↓
200	BC221 秦	箕子朝鮮		BC221 始皇帝が中国を統一
100	前漢	BC194 衛氏朝鮮	弥生時代	BC202 劉邦が漢を興す
BC	AD 8 新	BC108 楽浪郡		●銅鏃が「廃棄」される (中期中葉) ●南方遺跡の集落が衰退 (中期後半)
AD	後漢	原三国時代		14 新の王莽が貨泉を鑄造 ●日本の遺跡から貨泉出土 (後期初頭)
100	蜀 吳 魏	AD204 帯方郡		57 奴国王、漢に朝貢
200	西晋			107 倭国王・師升、漢に朝貢
300	東晋 五胡十六国	高句麗 新羅 百済 伽耶	古墳時代	倭国大乱 238 邪馬台国・女王卑弥呼が魏に朝貢 ●再び南方遺跡に人が住み始める